2026年11月19日

各　位

会社名　株式会社サイフューズ
代表者名　代表取締役　秋枝　静香
（コード番号：4892　東証グロース・福証Q-Board）
問合せ先　取締役CFO経営管理部長　三條　真弘
https://www.cyfusebio.com/contact

新たな3D細胞製品の開発進展及び営業外収益の計上に関するお知らせ

当社は、2024 年９月２日付「令和６年度新製品・新技術開発助成事業の事業採択に関するお知らせ」にて公表いたしました、東京都中小企業振興公社の公募事業「令和６年度新製品・新技術開発助成事業」（事業名：「難治性線維化疾患評価に適した革新的三次元間質組織 FCD」）につきまして、この度、所定の事業を完了し確定通知書を受領いたしました。

これに伴い、新たな3D細胞製品の開発進展及び2026年12月期第４四半期会計期間（2026年10月1日から2026年12月31日）における営業外収益の計上について、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．本事業の概要及び背景

当社は、独自の基盤技術「バイオ3Dプリンティング」を用い、生体内の機能の一部を体外で再現した新たな3D細胞製品である「機能性細胞デバイス」（Functional Cellular Device：FCD®、以下「FCD製品」）の開発・販売を展開しております。現在販売中の「ヒト3Dミニ肝臓®」に加え、さらなる製品ラインナップの一環として事業採択された本事業において、新たな細胞製デバイス「三次元間質組織」の開発に取り組んでまいりました。

臓器を構成する「実質細胞」を支え構造・環境を維持する「間質細胞（線維芽細胞など）」が、炎症や損傷により慢性的に活性化して臓器組織が硬化する病態が「臓器線維症」であり、特発性肺線維症や肝臓・腎臓・皮膚等の難治性疾患の主要因となっています。

本事業は、この病態を体外で精密に再現する「三次元間質組織」を開発し、有効な治療法が乏しい難治性線維化疾患の新薬開発に貢献することを目的として実施いたしました。

２．本事業の成果

この度、本事業を完了したことにより、従来の二次元培養等と比較してより生体に近い構造と機能を有し、線維化の進行や薬剤の応答を評価できる新たな細胞製デバイス「三次元間質組織」の開発が大きく進展いたしました。本事業で確立したモデル作製・評価に関する技術や知見は、こうした疾患モデル製品のさらなる高度化に加え、肺・腎臓・皮膚など多様な臓器の線維化疾患の課題解決に繋がることが期待されております。

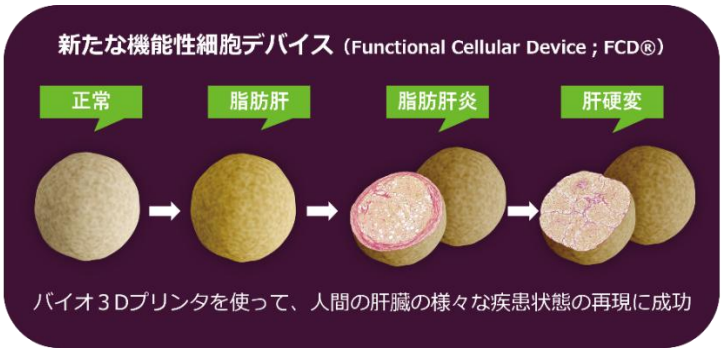
３．今後の見通し

当社はすでに 2025 年 12 月より肝臓の線維化等を再現した「ヒト 3D ミニ肝臓®/疾患モデル」を販売しており、MASH（代謝機能障害関連脂肪肝炎）等の創薬研究に活用されております。

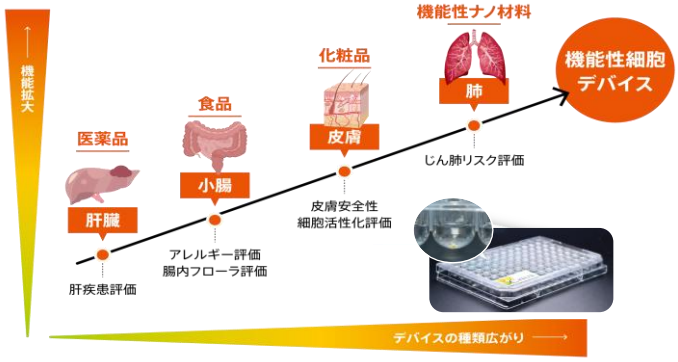
今後は、本事業の成果を新たな FCD 製品の実用化・商業化へと繋げ、「ヒト 3D ミニ肝臓®（健常モデル・疾患モデル）」や技術開発を完了した「3D ミニ腸管モデル」とあわせ、製品ラインナップの拡充を推進してまいります。

さらに、間質組織はがん細胞を取り巻く微小環境（がん間質）の形成や薬剤耐性にも深く関与するため、将来的にがん領域における薬効評価や新規治療薬開発への応用も期待されます。

これらを通じ、未だ解明されていない疾患の発症メカニズムの解明、新規治療薬候補の有効性・安全性評価、加えて世界的に要請が高まる動物実験代替法としての活用に貢献することで、成長拡大市場におけるさらなる事業拡大に繋げてまいります。



イメージ図：新たな機能性細胞デバイス
（肝臓の臓器線維症）



図：FCD 製品の今後の展開

４．営業外収益の計上

本事業の完了に伴う確定通知書の受領により交付額（15,000 千円）が確定したことから、当第４四半期会計期間（2026 年 10 月 1 日から 2026 年 12 月 31 日）において営業外収益として反映いたします。なお、当該収益につきましては、2026 年 12 月期通期業績予想において織り込み済みです。

以　上